

# 船小ハイブリッドパワー

— 学校と家庭を結ぶ —

校長室だより No.3

“やさしく かしく たくましく”

～ 本気と礼節の教育 ～

令和3年5月10日 文責:安生昌弘

## ◆ 心温まる“迎える会”

4月23日(金)2校時に「1年生を迎える会」が楽しく行われました。新型コロナウイルス感染症対策をとって、体育館には、1・5・6年生のみが入場し、2～4年生は教室で中継映像を視聴していて、自分の出番だけ体育館に入場しました。出し物の時間も短くしましたが、かえって会はテンポよく進行し、1年生も飽きずに楽しんでいました。

入学式の退場曲だった「♪夢をかなえてドラえもん」に合わせて1年生の入場。6年生に用意してもらったパイプ椅子に座りますが、足は床につかずブランブランです。そのブランブランが曲にピッタリ合っていて、6年生からは思わず「カワイイ！」の声が上がりました。2年生のポンポンを持ったダンス、3年生の鍵盤ハーモニカ演奏、4年生のリコーダー演奏、5・6年生の鼓笛演奏へと会は進みましたが、その出し物の内容は元より入場の仕方、発表の態度まで、年齢差が良く分かるものでした。一年一年、子どもたちは育っていくのでしょう。上級生全員の「1年生をみんなで待ってたよー」という歓迎の気持ちがあふれた心温まる「迎える会」となりました。



## ◆ 実は“給食”も教育活動

ようやく給食が先週から始まりました。昼食の心配をしないで済むことが、どれ程有難いかを感じております。子どもたちも待ちに待っていた給食ですが、学校給食法という法律で目標が定められています。栄養を摂る事の他に、望ましい食習慣や伝統的食文化など6つもあるのです。

その中でも注目したい目標は「食べ物が自然の恩恵であること」、「食生活が大人の勤労のお陰であること」の2つです。ですから、教室では必ず「いただきます」で



食事が始まり「ごちそうさま」で終わります。中には、ご家庭での習慣なのか、手を合わせる子、頭を垂れる子など様々です。しかし、あいさつが習慣になると、その意味を忘れがちです。「いただきます」は漢字で書くと「戴きます」。自分の頭より上に奉げ持つことです。「ごちそうさま」は「御馳走様」。走り回っての食材の準備への感謝です。自然界の命や食を届け準備してくださる方に感謝する心を育てたいと考えながら、学校では給食指導を行っています。

学校と家庭がタッグを組み、一つ(ハイブリッド)になって2倍以上の力(パワー)で効果的に子どもたちを育てたいと願い、校長室だよりを『船小ハイブリッドパワー』と名付けました。